科目名称：	保育原理	
担当者名：	村上　知子	
区分	授業形態	単位数
専門教育科目	講義	2

授業の目的・テーマ

１．保育の意義及び目的について理解する。
２．保育に関する法令及び制度を理解する。
３．保育所保育指針における保育の基本について理解する。
４．保育の思想と歴史的変遷について理解する。
５．保育の現状と課題について理解する。

授業の達成目標・到達目標

本講義を通して、保育にとってもっとも基礎となる、保育の基本・法令・歴史を学び、自分の保育観・子ども観を醸成する。また、保育の現状や課題を理解し、乳幼児期の保育・教育の重要性を学ぶ。

幼児教育学科	ディプロマポリシー（卒業認定・学位授与の方針）	重点項目
DP(1)	自己理解を深め目標に向かって主体的に行動するとともに、多様性を尊重し、子ども・保護者・地域住民との良好な信頼関係を築いていくことができる。	
DP(2)	保育・幼児教育を取り巻く様々な問題に取り組み幅広い教養を身につけるとともに、変化する社会に対応するための協働的な実践力を身につけている。	○
DP(3)	保育・幼児教育の分野において、基礎知識を身につけるとともに、使命感、倫理観、責任感をもって専門的な知識や技能を修得し、これらを柔軟に活用していくことができる。	

評価方法／ディプロマポリシー	定期試験	クイズ 小テスト	提出課題 （レポート含む）	その他	合計
幼児教育DP(1)					0
幼児教育DP(2)	60	10	20	10	100
幼児教育DP(3)					0
					100

実務経験のある教員の担当	担当教員の実務経験の内容（内容・経験年数を記載）	
あり	《内容１》保育士	《経験年数１》８ヶ月
	《内容２》幼稚園教諭	《経験年数２》20年
	《内容３》	《経験年数３》
	《内容４》	《経験年数４》

備考

到達目標ルーブリック	すばらしい	とてもよい	よい	要努力
知識	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして積極的に講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせ、それを活かして講義に参加できる	講義で学んだ知識を組み合わせて考えることができる	講義で学んで知識を組み合わせて考えることができず、専門性が乏しい
グループワークと発表	他者の意見を受け止めながら、自分の意見を伝えることができる。また、ディスカッションの内容をまとめ、わかりやすく発表することができる	他者の意見を聞き、自分の意見を伝えることができる。また、ディスカッションの内容をまとめ、発表することができる	自分の意見を伝えることができる。また、ディスカッションの内容を発表することができる	グループワークに積極的に参加せず、まとめて発表することができない
学びへの積極性	自分の課題を持ち、話を聞く態度が良く、質問や意見などを、毎回１回以上述べようとする。	自分の課題を持ち、話を聞く態度が良く、質問や意見などを、時々述べることができる	話を聞き態度が良い。質問されれば、答えることができる	発表や意見を言うことができず、私語や居眠り等をしている
課題	課題に積極的に取り組み、求められる内容以上の課題を期日までに提出することができる。	課題に積極的に取り組み、求められる内容の課題を期日までに提出することができる。	求められる内容の課題を期日までに提出することができる。	課題を期限までに提出できず、内容も不十分である。

授業の内容・計画		事前事後学修の内容	事前事後学修時間（分）
第１回	保育とは何かを考える。昔の子どもと今のこどもの違いについて学ぶ。（ICTの活用）	子どもの頃にしていた遊びを思いだしておく。	20分
第２回	子どもの育ちと発達について学ぶ。（ICTの活用）	子どもの育ちと発達のプリントに記入し、次回の授業に提出する。	30分
第３回	保育所・幼稚園・認定こども園の違いを理解する。（ICTの活用）	事前に配布するプリントに各種別の違いを調べ記入し、次の授業に提出する。	30分
第４回	保育に関する法令及び制度を理解する。（ICTの活用）	事前に配布するプリントに法令・制度について調べ、次回の授業に提出する。	30分
第５回	養護と教育の一体性、環境を通した保育について考える。（グループワーク）	グループワークでの学びをレポートにまとめ提出する。	30分
第６回	保育のねらいと内容と方法ー乳児と１・２歳児ーについて理解する。（ICTの利用）	乳児と１・２歳児の発達過程を調べ, レポートにまとめておく。	30分
第７回	保育のねらいと内容と方法ー３歳以上児ーについて理解する。（ICTの利用）	3歳以上児の発達を調べ、レポートにまとめておく。	30分
第８回	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿からつながる小学校との連携を考える。（グループワーク）	教科書P92～103の「幼児の終わりまでに育ってほしい姿」を読んでおく。	30分
第９回	教育課程・全体的な計画とカリキュラム・マネジメントを理解する。（ICTの活用）	教科書P104～117の幼児の保育の計画を読んでおく。	30分
第10回	保育者に求められる専門性とキャリアパスを理解する。（ICTの活用）	保育者に求められる専門性について考え、レポートにまとめておく。	30分
第11回	子育て支援・保護者と地域についてグループで発表する。（グループワーク）	自分の住んでいる地域の子育て支援について調べ、レポートにまとめておく。	30分
第12回	海外の保育思想と歴史を学ぶ。（ICTを利用）	海外の保育思想をレポートにまとめておく。	30分
第13回	日本の保育思想と歴史を学ぶ。（ICTを利用）	日本の保育思想をレポートにまとめておく。	30分
第14回	保育の現状と課題について、グループで討議し、発表する。	グループで討議するために、保育の現状と課題をまとめておく。	30分
第15回	講義全般のまとめ	配布プリントやノート等で全講義の内容を確認してくる。	30分

事後学修時間については、受講するにあたっての最低限の目安を明記したが、単位取得のためには原則として授業時間と事前事後学修を含め学則第17条の2で規定された学修時間が必要である。
また、事前事後学修としては、次回までの課題プリント(小レポート)をまとめることになる。

成績評価の方法・基準

定期試験は、 60%で評価する。 その他の評価配分は、以下のとおりである。
クイズ（10%）、課題提出（20%）、授業への積極的関与（10%）

課題に対してのフィードバック

提出された課題については、ルーブリック等で評価し返却する。

教科書・参考書

教科書：「つながる保育原理」　井上孝之他編著　みらい（教科書は毎回の授業や事前事後学習で使用する）
「保育士保育指針」厚生労働省
「幼稚園教育要領」文部科学省
「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」内閣府・文部科学省・厚生労働省